

## 令和6年度 第4回 草津市スポーツ推進審議会 議事録

■日時：

令和7年2月25日（火）18時00分～19時50分

■場所：

市役所8階大会議室

■出席委員：

岡本委員、石井委員、柴原委員、中野委員、稲田委員、吉野委員、板坂委員、庄司委員

■欠席委員：

小傳良委員、池田委員

■事務局：

岸本教育部長、田中副部長

学校教育課 西田課長、中村主査

国スポ・障スポ推進室 岩城室長

スポーツ推進課 堀井課長、遠藤課長補佐、川越主査

■傍聴者：

0名

### 1 開会

---

【事務局】

皆様、こんばんは。教育部長の岸本です。今年度第4回目の草津市スポーツ推進審議会にご出席いただき、ありがとうございます。国スポの本番大会まで残すところ約7か月と、いよいよ目前に迫ってまいりました。関係団体の皆様とより一層連携を深め、より良い大会になるよう取り組んでまいりたいと思います。本日は、第3期スポーツ推進計画策定の参考とするために実施するアンケート調査について、取り入れるべき視点や内容について御意見をお伺いするものです。委員の皆様のご意見をお聞かせいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

【会長】

部長のお話にもあったが、いよいよ国スポが始まる。鹿児島県、佐賀県の国スポを見てきたが、「おもてなし」という言葉がよく使われている。なによりも、市民の方々が、「来てくれてありがとう」という気持ちを、参加者や来場者の方々に対して伝えていくことが大切だと感じている。先ほどのお話で、国スポのボランティアの方々がたくさん集まっていただけだと感じているところであるが、

ボランティアの方々に対して、市が丁寧に指導したうえで、業務にあたっていただく必要があると思う。

本日は、来年度実施予定のアンケートの内容が主な議題であるが、今後の草津市のスポーツ推進のためにどのようにつなげていくことができるかという視点を含めて御意見をいただきたいと思う。

## 2. 議事

---

### (1) 第2期計画の目標達成状況について

#### 【事務局】

資料1に基づき、第2期草津市スポーツ推進計画の基本方針毎の目標達成状況について説明

#### 【会長】

基本方針1について、小学5年生女子の「運動・スポーツが好きな子どもの割合」が横ばいとのことだが、事務局としてどのように捉えておられるのか。

#### 【事務局】

女子の結果が横ばいになっていることにつきましては、学校の体育の授業に関する評価は全国と比較して高い数値になっていることから、体育の授業内容をより充実させていくことで、運動好きな子どもの割合が増えていくものと考えている。女子については横ばいではあるものの、依然全国より低い割合となっておりますので、達成感を味わえるような授業を展開し、運動好きな子どもの割合の増加に取り組んでいきたいと考えている。

#### 【会長】

基本方針2について、60歳代のスポーツ実施率が低下したということだが、どのように事務局は分析されているか。

#### 【事務局】

男女ともに実施率が下がっており、調査の中で分析できる範囲では、これといった要因はつかめていない。

#### 【会長】

基本方針3について、全国大会の出場件数には、高校生や大学生、社会人等全て含まれているのか。

**【事務局】**

小学生から大人の方まで、全て含んだ件数である。

**【会長】**

社会人の方が出場される全国大会にも色々あるが、すべて把握しきれているのか。

**【事務局】**

あくまで激励金の交付申請があった件数になる。申請をされていない場合は把握できていない。

**【会長】**

今後、申請をされていない方に案内をする等のアプローチができれば、件数も変わってくると思う。

基本方針5の「広域的なスポーツイベントの参加者数」について、1月末現在の数字ということだが、びわ湖マラソン等のイベントの参加者数も今後含まれていくということか。

**【事務局】**

そうである。SV リーグも今後開催されるゲームもあるため、そちらも追加していく。

**【会長】**

こどもの体力向上とスポーツ活動の推進について、運動・スポーツが好きかどうかを尋ねるにあたり、他の市町と比較して、質問の仕方に何か特色があるのか。

**【事務局】**

質問については「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において実施されたものであり、内容は全国共通である。

**【委員】**

基本方針1にも関係するが、学校で行われる体育の授業に対して、市はどのように見られるか。学校としては、担任が可能な限りの授業改善を行いながら実施しているが、どこをどのように変えていけば良いのか、市の意見を聞きたい。他の方針についてもそうだが、目標値は掲げられているものの、どのようなアプローチを通じて、その目標を達成していくのかが示されておらず分からない。

**【事務局】**

スポーツテストの場合は、毎年小学5年生の結果が指標に掲げられているため、毎年対象のこどもが変わる。市としては、小学生1年生から中学校3年生までの結果を分析し、こどもたちの強みや課題を把握し学校と共有したうえで、小学生の体育の授業で設けている5分間の「チャレンジタイム」において、把握した課題に対するアプローチしていただくよう、方針を示していきたいと考えている。

**【会長】**

女子の「運動・スポーツが好きなこどもの割合」が過去5年間あまり変化していない。現場の先生方の声を把握することも大切。会議の場だけでは、なかなか結論が出てこないものだと思う。

**【委員】**

令和6年度の60歳代のスポーツ実施率が減少したということであったが、今後どんどん減少していくと思う。かつては60歳で定年を迎えたらそれ以降は働かずに過ごされる方も多かったが、最近は働いている方も多し。そういった傾向が、この数値に現われているのでは考えている。

**【会長】**

働いておられると、なかなかまとまった時間を確保できないということかと思う。  
基本方針3については御意見いかがか。

**【委員】**

県民スポーツ大会について、参加チームが少ないと感じている。

**【委員】**

全国大会の出場件数について、市で集まって練習をして、国スポ出場が見込まれる選手を集めて合宿をするなどの取組をしている。そういった取組を増やしていけば、出場件数も増えていくのではないかと思う。

**【会長】**

市立プールについて、主に県の水泳連盟が関わっておられるかと思うが、大会誘致等に取り組んでいかれるのか。

**【事務局】**

にぎわい創出の視点も含め、現在も大規模大会の誘致を行っているところであり、今

後も継続されていくものと考えている。

## (2) 市民アンケートの概要について

### 【事務局】

資料2に基づき、国・県の計画との比較について説明

### 【会長】

資料2、国の計画内容⑨について、「ガバナンス」という言葉がある。国は、中央競技団体や県の競技団体、総合型地域スポーツクラブに対し、運営の仕方やお金の扱いなどのルールに関する指示を行っているものである。市においても、市単位の競技団体に対して、ルールに則った運営を行うよう指示を出していこうというものである。

⑩の「スポーツインテグリティ」については、倫理や社会性について、きっちり教育していこうというものである。

資料2は、市の方針が国、県の方針や施策のうち、どの項目と関連しているかを方針ごとに示しているものである。

スポーツ推進計画については、国が方針を出し、県が県レベルのもう少し細かい方針を作り、それらを受けて市が具体化をしていく、というものである。

### 【事務局】

資料3に基づき、計画期間の見直しについて説明

### 【会長】

市のスポーツ推進計画策定にあたっては、国が出した方針に基づき、県が計画を立て、それらを参酌して市が策定する。計画期間を見直し、中間見直しを令和11年に行うことにより、比較的早い段階で国や県の計画を参酌できる、ということである。

### 【事務局】

資料4に基づき、アンケート調査等の対象者について説明

### 【会長】

市民アンケートの対象者が3,000人ということだが、年代別で抽出するのか。例えば、先ほどの御意見にもあった、就労状況などの要素で区切って抽出することはあるか。

### 【事務局】

人口構成の割合から算出し、年代別の人数を決めていく。対象者抽出の際に、就労状

況などの要素については参照にする予定はない。

**【会長】**

前回調査時には、計画策定年に実施したアンケートの結果と、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」を比較していたのか。

**【事務局】**

比較しており、運動の好き嫌いなどについては同様の傾向がみられた。しかしながら、調査年がずれており、対象者が異なってくるので、2つの調査を掛け合わせた分析はできていない。

今回実施するアンケートでは、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」等から把握できる内容についての設問は設けず、既存アンケートで聞き取れていない内容についてのみアンケートとするつもりである。

**【会長】**

ヒアリングされる内容は数字では出てこないものも多いと想定されるが、ヒアリング結果をどのように示していくのか。個別の意見を拾っていくということか。

**【事務局】**

報告書のような形で取りまとめていきたいと考えている。ヒアリングについては、実態調査の結果、踏み込んだ聞き取りが必要と判断したものに対して実施する予定であり、その結果を踏まえ報告書を作成してまいりたいと考えている。

**【会長】**

ヒアリング調査の結果を分析する際は、質的分析が必要になってくるとされる。どのような内容でヒアリングし、記録を残していくのか、課題はあると思うので、検討いただきたい。

続いて、資料5、参考資料1について、委員の皆様から御意見等いかがか。

**【委員】**

届いたアンケートを実際に回答してみたが、設問数が多く、回答される方は大変だと感じた。非常に細かい内容を問う設問なので、きちんと回答いただけるのであれば良いと思う。自分のようにスポーツに携わっている人であれば回答されるだろうが、それ以外の方は回答されないこともあるのではないかと思う。

**【委員】**

これだけ設問があると回答するのが億劫に感じられると思う。

問 23 について、過去 1 年間に利用した公共スポーツ施設を問う設問であるが、選択肢に小中学校の体育館やグラウンドが入っていない。利用されている団体は非常に多いと思うが、そのような方は「公共のスポーツ施設を利用したことがない」という回答になってしまう。グリーンスタジアム横の広場についても、選択肢に含めた方がよいのではないか。

また、問 35 について、過去 1 年間にスポーツ施設を訪れてスポーツ観戦をしたことがあるかを問う設問であるが、スポーツ少年団や部活動など、こどもの試合が選択肢に含まれていない。競技についてもテニスやバドミントンなども含まれていない。

競技を特定するのではなく、色々な方が答えやすい選択肢を用意した方がよいのではないか。

**【事務局】**

問 23 に記載している施設については、スポーツを主目的として整備された施設を選択肢に挙げている。これまで整備を行ってきた施設について市民はどのように捉えておられるかを確認するというねらいからそのような選択肢にしていたが、先ほど設問数が多いという御意見もあったので、そもそものねらいを損なわない範囲で、設問をまとめるなどの工夫をしてみたい。

**【会長】**

問 23 については練り直すということで良いか。

**【事務局】**

そうである。

**【会長】**

問 35 について、先ほどの御意見以外にも、高齢者の方が知人が出場するスポーツの大会等を見に行くようなこともあると思う。そういった視点も取り入れていった方が良くと思う。

また、選択肢が市民の方にとっては分かりにくい部分もあるのではないか。また、選択肢にない競技で、競技人口が増えているものもある。そういった競技人口動態も踏まえて選択肢を検討した方がよいのではないか。

**【委員】**

設問数が多いことや、複数回答が可能であると、詳しく知ることができる一方で、こ

たえる側としては適当に回答してしまうと思う。

設問 35 については、高校野球だけが個別に挙げられていることを不思議に思った。自分の経験競技の試合を見に行くということはあるのだが、選択肢が高校野球だけに絞られていると、あてはまる選択肢がなくなってしまう。

**【委員】**

問 18 について、自分はスイミングクラブでアルバイトをしているのだが、再入会される方が多い。「今後、会員になりたい」と回答した方に対して、なぜそう思うのかを聞くことで、今後スポーツ実施率を向上させるためのアプローチ方法などが見つかるかもしれない。

フィットネスクラブを退会される理由で最も多いのが「卒業」。中学校に上がるタイミングでスポーツから離れてしまうことが多い。

**【委員】**

前回のアンケートでは、対象者 3,000 人のうち、どの程度回答があったのか。

**【事務局】**

回答数は 1,061 人で、約 35%程度である。

**【委員】**

教員の働き方改革に伴う部活動のあり方、スマートフォンの普及など、様々な要因が子どもからスポーツを奪っていると感じている。その現状に対して、市民の方はどのように感じておられるのかを聞いてみてはどうか。

部活動では、時間短縮や競技数の減少もあり、子どもがスポーツに取り組む機会が奪われていると思う。

**【事務局】**

資料 5、参考資料 1 に基づき、アンケートの概要について説明

**【会長】**

アンケート調査票を確定させるのはいつ頃になるか。

**【事務局】**

本日頂戴した御意見等を踏まえ、事務局の方で年度内に調査票を作成し、岡本会長に確認をいただいた上で確定させる。実際の発送については 5 月末を予定している。

最終の調査票については、また皆様にもお示しする予定ではあるが、おそらく発送後

になる。

**【委員】**

設問は多いが、関心のある方はきっちり答えていただけると思うので、良いと思う。

**【会長】**

問 42 について、「スポーツ推進やまちづくり」という表現があるが、「まちづくり」という単語は人によって違うイメージを持たれるのではないかと。草津市が掲げている「健幸都市」というキーワードを取り入れてみても良いのではないかと。

**【事務局】**

資料 4 のスケジュール、参考資料 1 に基づき、アンケートの概要について説明

**【会長】**

第 1 回の審議会について、「次期計画の検討」とあるが、アンケートの結果がない状態だが検討する、ということで良いかと。

**【事務局】**

そうである。

**【会長】**

来年度は会議の数が多くなる。今後の予定について御確認をお願いします。

**【委員】**

国、県、市とスポーツの計画を策定されているが、この計画をどれだけの人を知っているのか。学校現場において、計画の認知度は低いのが現実。いかに周知するかを考えると、宝の持ち腐れになってしまう。

**【事務局】**

スポーツ推進計画については、第 2 期目の計画である。

例えば、こどもの体力向上でいうと、こどもの体力を測る指標として、体力テストの結果があるが、1 期目の計画を策定した時は、県よりも体力テストの結果が低い状況であったため、このような目標設定になっている。運動・スポーツが好きなこどもの割合を指標に掲げているのは、運動好きのこどもの割合が本市において低く、運動好きのこどもを育てることで、体力向上につながると考えたからである。

今後、次期計画の目標設定をする際は、なぜその目標を立てたのか、根拠と目的につ

いて審議会において御説明させていただく。

現行計画は4年前に策定したものであり、その際に学校に向けても説明はしているものの、薄れていってしまっている。計画を策定すると同時に、学校をはじめ、計画の内容を取組につなげていくように、周知していく。

**【会長】**

行政だけでなく、関係団体等からも意見や情報を集めながら、市としてどのようなことに取り組んでいくのか検討していく必要がある。

先ほど御意見ありましたように、各主体に対し、計画の内容をどこまで落とし込んでいるのかが大切である。関係各所と連携しながら、どう取り組んでいくのか、情報共有に努める必要がある。

～閉会～